

タイトル	スロバキア国のプロパガンダにおける敵のイメージの諸類型 ……エドゥアルド・ニジニャンスキー , カタリーナ・プシツォヴァ
著者	木村, 和範; KIMURA, Kazunori
引用	季刊北海学園大学経済論集, 71(3): 55-79
発行日	2023-12-31

《翻訳》

スロバキア国のプロパガンダにおける 敵のイメージの諸類型*

エドゥアルド・ニジニャンスキー** カタリーナ・プシツォヴァ***
木村和範****(訳)

目次

はじめに

1. 反ユダヤ主義とプロパガンダ
 2. プロパガンダの体制と広報メディア
 3. 『国民新聞』(1940年～1945年)
 4. 敵のイメージを形成した3要因
 5. 味方のイメージ
 6. 敵の対外的・政治的イメージ
 7. 国内向け反ユダヤ・プロパガンダ
- むすび

はじめに

国であろうと信仰であろうと、はたまた社会であろうと何でも構わないが、そこに己^{おのれ}

のアイデンティティを探し求めることは、極めてまっとうなことであろう。世代間の違いを社会の中に見いだそうとする試みは、たとえそれが感情に誘発されようが、社会的なものであろうが、普通に見られる営為である。しかし、この心の動きがある時点から少しずつ変化し国家^{おかし}の定義に依拠して、「我々とそれ以外の者」⁽¹⁾とを見分けるためになされる

*原著者 (Eduard Nižňanský と Katarína Psicová) は、„Die Darstellung des Antisemitismus in der Slowakei durch Karikaturen und Plakate“ (in: *ditto, Antisemitismus und Holocaust in der Slowakei in Dokumenten deutscher Provenienz von 1938 bis 1945*, Banská Bystrica: Múzeum Slovenského národného povstania [スロバキ国民蜂起記念博物館], 2021, SS. 59–66) を執筆したが、それに対して図版を追加し叙述を補強するなどして大幅に手を加えた改訂稿 („Die Typologie des Feindbildes in der Propaganda des slowakischen Staates“) を訳者に送付した(2023年6月)。本稿訳文の底本はこれである。この改訂稿の訳出公刊には著者の許諾を得た。訳者による照会への著者の見解は(補注)とした。
[] 内は訳者による。

** コメニウス大学 (スロバキア)

*** コメニウス大学大学院

**** 本学名誉教授

(1) ACHMANN, Birgit - SALEWSKI, Michael (eds.). *Das Bild des Anderen. Politische Wahrnehmung im 19. und 20. Jahrhundert*. Stuttgart: Franz Steiner Verlag, 2000; BENZ, Wolfgang (Hrsg.). *Der Hass gegen die Juden. Dimensionen und Formen des Antisemitismus*. Berlin: Metropol, 2008.

ならば、それは問題である。本稿では、第二次世界大戦中に見られた「敵」についての語りと視覚化表現に関する分析を通じてこのことを考察する。

イタリアの作家ウンベルト・エーコは次のように指摘している。

敵がいるということは、我々のアイデンティティを定義するために重要であるだけでない。自分の価値体系を肯定的に評価するときに何がその妨げになっているかははっきりさせるために大切であるばかりか、その障害を取り除いて自らの価値観を確立させるときにも重要である。したがって敵がいらないときには、敵を作り出さなければならない⁽²⁾。

敵のイメージがどのように形成されるかを考察するために、ドイツの法学者で政治学者のカール・シュミットの著作を参考にすることにしよう。『政治の概念』(1932年)の中で、シュミットはこの問題を明確に定義しているからである。シュミットは、味方と敵の区別は政治的なものであるという事実に基づいて、次のように述べているのはとても意味深い。

味方と敵の区別が表しているのは、彼我の結合ないし分離の強度(距離感)である⁽³⁾。

ナチス・ドイツとスロバキア国(スロバキア共和国)^[訳注1]との関係を規定したのは、ス

ロバキア共和国建国(1939年)の立役者を演じたドイツのほうであるが、先の[シュミットの]定義を使うことによって、ドイツとスロバキアの関係をはっきりさせることができる。この二つの友好国は、まさしく生と死の政治的連合体をなし、ナチス・ドイツが敗北すると、理の当然としてスロバキア共和国は消滅した。シュミットにとって、味方と敵は、理論的にも実際のにもそれぞれが政治的協力関係の対極にある二つの「理念型」であった。

国民国家が存在したときに、敵という概念ができあがっていたとして、シュミットは次のように述べている。

政敵……とは、まさに他者であり異邦人である。はっきり言えば、その存在が我々とは異なる者であって、究極的にはその者との間に対立が生ずることもある。ところが、この対立は、あらかじめ定型化しておくことができない。そればかりか、「局外」にあって「偏ったものの見方をしない」第三者でも^か斯くと定めることはできない事柄である⁽⁴⁾。

シュミットは、このような[彼我の]分裂が国民(あるいは国家)の間の関係にどのような結果をもたらすかについて、次のように書いている。

……相も変わらず国民は敵味方に分か

(2) ECO, Umberto. *Inventing the Enemy*. Boston-New York: Mariner Books, 2012, p. 2; GARCIA, Anca Andriescu. *Inventing the Enemy. When Propaganda Becomes History*. In: *Acta Universitatis Sapientiae. Philologica*, Vol. 5, No. 1, 2013, pp. 59–66.

(3) SCHMITT, Carl. *Der Begriff der Politischen*. Berlin: Duncker & Humblot, 1932, S. 27

[訳注1] 1938年10月6日(自治宣言)～1939年3月14日(独立宣言)までを「自治政府時代」と言う。1939年3月14日～1939年7月21日の正式国名は「スロバキア国(Slovenský štát, Slowakischer Staat)」であり、1939年7月21日～1945年5月8日は「スロバキア共和国(Slovenská republika, Slowakische Republik)」であるが⁵、区別せずに全期間を通じて「スロバキア」「スロバキア国」「スロバキア共和国」が使用されることもある。

(4) SCHMITT, Carl. *Der Begriff der Politischen*. Berlin: Duncker & Humblot, 1932, S. 27.

れている。……敵とは、一般的な意味での競争相手とか対戦相手でもなければ、反感を抱く個人的な相手方でもない。敵とは、闘う人々の全体と衝突して実際に闘う可能性のある人々の全体を指す。[この意味で] 敵とは公共の敵に他ならない。なぜならば、そのような人々の全体(全国民)が関与している事柄はすべて、公共性を持つからである⁽⁵⁾。

こうしてシュミットは、敵との政治闘争の問題を至極明快に次のように定義している。

政治的な対立は、対立の中でも最も激しく強力である。あらゆる具体的な対立は、両者が敵と味方に識別される頂点に近づくにつれて、ますます政治性が強められる⁽⁶⁾。

我々の分析の一部をなす戦時下の対立そのものについて、シュミットは次のように述べている。

敵の概念には、現実には起こりうる武力衝突が含意されている。……戦争は、相手の存在そのものを否定する敵意から生まれる。戦争とは、敵意の最も極端な現実化にすぎない⁽⁷⁾。

カール・シュミットは我々が分析しようとする問題を、以上のように理論的に明確に定義した。要するに、シュミットは現実主義者の観点から国際関係論を構想するとき、イデオロギー上の敵対関係が必然的に戦争へと移行すると考えていたのである。第二次世界大戦はこのようにして起こったことになる。友

好国どうしの関係については、逆のこと[軍事同盟の強化]が言えるであろう。

1. 反ユダヤ主義とプロパガンダ

以下では、週刊新聞『国民新聞 (*Ludové noviny*)』と風刺週刊誌『猫 (*Kocúr*)』に掲載されたカリカチュアとそれに付けられた文章を基にして、反ユダヤ・プロパガンダの問題を概説する。

反ユダヤ政策の根底にあるのは、ユダヤ人をスロバキアの国と国民にとっての不倶戴天の敵とするものの見方である⁽⁸⁾。スロバキア国民が誕生してその形をなすにつれて、第一にスロバキアで生まれた反ユダヤ主義の考えかた、そして第二にユダヤ人(場合によってはチェコ人とコミュニスト)への敵視という二つの「要因が一体化」した。

フリンカ・スロバキア人民党^[訳注2]の反ユダヤ路線は、戦前にスロバキア自治政府で生まれた独自の反ユダヤ主義に淵源する。繰り返しをお許し願いたいだが、スロバキアの反ユダヤ主義には次のような四つのレベルがある^[訳注3]。①社会経済レベル(「ユダヤ人はスロバキア経済を思いのままにしている。ユダヤ人はスロバキア人を酒に溺れさせた。」)、②民族レベル(「ユダヤ人はイディッシュ語、ドイ

(8) NIŽNANSKÝ, Eduard - KAMENEC, Ivan. *Holokaust na Slovensku 2* [スロバキアのホロコースト 第2巻]. Bratislava, 2003, S. 6.

[訳注2] フリンカ・スロバキア人民党 (Hlinkova slovenská ľudová strana: HSLS) は、1916年にカトリックの聖職者アンドレイ・フリンカ (Andrej Hlinka) (1864年～1938年) によって正式に結党されたカトリック系の政党(スロバキア人民党 (Slovenská ľudová strana, SLS)) の改称政党。

[訳注3] NIŽNANSKÝ, Eduard - PSICOVÁ, Katarína, *Antisemitismus und Holocaust in der Slowakei in Dokumenten deutscher Provenienz von 1938 bis 1945*, Banská Bystrica: Múzeum Slovenského národného povstania, 2021, SS. 32ff.

(5) *Ibid.*, SS. 28-29.

(6) *Ibid.*, S. 30.

(7) *Ibid.*, S. 33.

ツ語、ハンガリー語を話し、スロバキア人ではない。」「ユダヤ人はオーストリア＝ハンガリー帝国の時代にスロバキア人をマジャール化^[訳注4]した。」、③政治レベル（「ユダヤ人は自由主義者であるか左翼『ユダヤ・ボルシェヴィキ』である。）」、④宗教レベル（「ユダヤ人はイエス・キリストを磔刑に処した。ユダヤ人は救世主を殺した。」。）これらは、スロバキアにおける反ユダヤ主義と反ユダヤ・プロパガンダのイデオロギー的中核をなしている。反ユダヤ・プロパガンダは、スロバキアの内政と外交政策の両面で観察することができるが、1938年から1944年までのプロパガンダで主要な道具となったのは、ユダヤ人のイメージである。このとき上に述べた反ユダヤ主義だけでなく、ユダヤ人をスロバキアの国と国民の敵とするイメージも反ユダヤ・プロパガンダに使用された⁽⁹⁾。

2. プロパガンダの体制と 広報メディア

スロバキア政府は1938年10月に国の部局として政治宣伝局を設置した。その局の文書館は破壊されたが、1940年以降に政治宣伝局が発行した絵入りの週刊新聞（『国民新

聞』）のうち、その約80%が保存されている。^{プロパガンダ}政治宣伝局でポスター制作に関与した者も一部ではあるが分かっている。戦後になると、3人の歴代政治宣伝局長（アレクサンデル・マッハ⁽¹⁰⁾、カロール・ムルガシュ⁽¹¹⁾、ティド・J. ガシュパル⁽¹²⁾）は、その全員が裁判^{プロパガンダ}にかけられた。その法廷に開示された政治宣伝局の活動に関する資料は、ごくわずかであった。検閲があったスロバキアではプロパガンダも

(10) アレクサンデル・マッハ (Alexander Mach)

(1902年～1980年)。スロバキア・ファシストのジャーナリスト、フリンカ・スロバキア人民党の政治家、対独従属国スロバキアの閣僚。1940年～41年、政治宣伝局長。「スロバキア・ホロコーストの主導者」で、第二次世界大戦におけるユダヤ人迫害に多大なる責任を負う。1938年～1945年の独裁国家（フリンカ・スロバキア人民党独裁政権）時代、首相のヴォイテフ・トゥカとともにフリンカ・スロバキア人民党急進派の中心人物。1938年～39年、政治宣伝局長^{プロパガンダ}、1939年～40年、1940年～44年、フリンカ警護団総司令官、1940年～45年、内務大臣兼副首相。戦後、国民法廷で30年の禁固刑判決。

(11) カロール・ムルガシュ (Karol Murgas) (1899年～1972年)。フリンカ・スロバキア人民党急進派の代表者の一人。フリンカ警護団司令官、1941年、スロバキア政府政治宣伝局長。1941年、ザグレブ（クロアチア）駐在スロバキア大使。

(12) ティド・J. ガシュパル (Tido J. Gašpar) (1893年～1972年)。スロバキアの作家、ジャーナリスト、政治家。1938年、フリンカ・スロバキア人民党副代表、1939年、スロバキア国会報道局長、1940年（短期間）、スイス駐在スロバキア大使、1941年、政治宣伝局長^{プロパガンダ}。スロバキアに国家社会主義的反ユダヤ主義的イデオロギーを普及。ガシュパルは、1944年8月29日（スロバキア国民蜂起の勃発）の国防大臣フェルディナント・チャトロシュ (Ferdinand Čatloš) によるラジオ演説の原稿執筆者である。これによって、ドイツ国防軍がスロバキアに侵攻したことを宣言し、住民に無抵抗を呼びかけた。この演説で、スロバキア西部と東部の部隊の大半が蜂起に参加しないこと、およびドイツ軍による自国軍各部隊の武装解除を容認したことを伝えた。スロバキアの中で果たした役割のために、第二次世界大戦終結後に逮捕、判決は30年の禁固。

[訳注4] ハンガリーのマジョリティはマジャール人であり、「マジャール化 (magyarisieren)」とは、思想的・文化的にマジャール人に同化する（マジャール人の文化を生活に取り入れる）ことを意味する。ここでは、ユダヤ人がスロバキアの文化的遺産を継承せず、ハンガリー指向であるという謂。

(9) Siehe LONČIKOVÁ, Michala. "The Jew Is and Always Will Be Our Greatest Enemy! Anti-Semitism in Slovak Radio Broadcast from the Reich's Vienna Radio Station." In: *Forum Historiae*, 2019, Jahrgang 13, Nr. 1, S. 144-159; NIŽNANSKÝ, Eduard. *Obráz nepriateľa v propagande počas II. svetovej vojny na Slovensku* [第二次世界大戦中のスロバキアにおけるプロパガンダに見る敵のイメージ]. Banská Bystrica: Múzeum SNP, 2016.

管理され、そのために多くの資料が失われたが、文字どおりバラバラになった資料を見ると、新聞やラジオなどのメディアは個々の問題をどのように一般大衆に伝えるべきかについて毎日指示を受けていたことが分かる。フリンカ・スロバキア人民党報道局発行の『スロバキアの人々 (Slovak)』、フリンカ警護団出版局発行の『警護団員 (Gardista)』などの新聞を使えば、そこに掲載された政治家(大統領ヨゼフ・ティソ⁽¹³⁾、首相ヴォイテフ・トゥカ⁽¹⁴⁾など)の投稿記事から敵のイメージを再現することができる。また、戦時

中はナチス・ドイツがスロバキアのプロパガンダに介入したことも分かっている。この情報もまた断片的ではあるが、その中には使用できる史料もある(例えば、ベルリン外務省文書館やブラチスラバ公使館の収蔵文書)。

3. 『国民新聞』(1940年～1945年)

標題の週刊新聞は、政治宣伝局が^{プロパガンダ}一般大衆向けに発行し、全国の市町村に設置された掲示板で閲覧に供した。この新聞に掲載されたカリカチュアからは、政治レベルの反ユダヤ・プロパガンダが分かる⁽¹⁵⁾。数枚を見ただけで、この新聞に掲載された「ユダヤ人像」が、大統領ヨゼフ・ティソをはじめとする当時のスロバキアの政治エリートの考え方に照応していることは明らかである。

これらのカリカチュアの狙いは、スロバキアで反ユダヤ主義を強めることであった。それが、『国民新聞』には津々浦々に特別な掲示場所を用意していた理由でもあった。すでに述べたが、当時のプロパガンダは、内政だけでなく外交政策のためにも政治レベルの反ユダヤ主義を利用していた。スロバキアのプロパガンダではユダヤ人が「よそ者」呼ばわりされていただけでなく、ユダヤ人に対する否定的な描写は外交政策にも及び、その結果、ユダヤ人は反ヒトラー軍団の首魁^{しゅけい}とか共同責任者として描かれた⁽¹⁶⁾。

(13) ヨゼフ・ティソ (Jozef Tiso) (1887年～1947年)。ナチス・ドイツの協力者、カトリック司祭、スロバキア自治政府時代(1938年10月6日～1939年3月14日)の首相。スロバキア国の独立後、スロバキア共和国初代首相(1939年)、スロバキア共和国大統領(1939年～1945年)、与党フリンカ・スロバキア人民党議長(1939年～1945年)、フリンカ警護団(フリンカ・スロバキア人民党の準軍事組織)で穏健派を代表し、総司令官を務めたこともある。1942年から「総統(Vodca)」¹。第二次世界大戦後、処刑。以下を参照。KAMENEC, Ivan, *Jozef Tiso: Tragédia politika, kňaza a človeka* [ヨゼフ・ティソ 一政治家、神父、そして一人の男の悲劇—], Bratislava, 2013; NIŽNANSKÝ, Eduard. Die Vorstellungen Jozef Tiso über Religion, Volk und Staat und ihre Folgen für seine Politik während des Zweiten Weltkriegs. In: KAISEROVÁ, Kristina et al. eds. *Religion und Nation: Tschenen, Deutsche und Slowaken im 20. Jahrhundert*. Essen: Klartext, 2015, pp. 39–83; NIŽNANSKÝ, Eduard. Anti-Semitic Policies of Jozef Tiso during the War and before the National Court. In: MIČEV, Stanislav et al. eds. *Policy of Anti-Semitism and Holocaust in Post-War Retribution Trials in European States*. Banská Bystrica: Múzeum SNP, 2019, pp. 113–148; WARD, James Mace. *Priest, Politician, Collaborator: Jozef Tiso and the Making of Fascist Slovakia*. Ithaca and London: Cornell University Press, 2013.

(14) ヴォイテフ・「ベーラ」・トゥカ (Vojtech „Béla“ Tuka) (1880年～1946年)、フリンカ・スロバキア人民党の政治家。1939年～1940年、首相、1940年～1944年、外務大臣。ナチス・ドイツの協力者。スロバキアからドイツ占領下のポーラン

ドのナチス強制収容所へとユダヤ人を強制移送したときの中心人物の一人。フリンカ・スロバキア人民党急進派のリーダー。第二次世界大戦後、国民法廷の死刑判決により処刑。

(15) たとえば、ユダヤ人が連合国を操っていることを一目で分かるように『国民新聞』(1941年8月24日号)の第一面にカリカチュアを掲載した(68頁の図9参照)。

(16) LONČIKOVÁ, Michala. Was the Antisemitic Propaganda a Catalyst for Tensions in the Slovak-

4. 敵のイメージを形成した3要因

〔この項で執筆者は、①プロパガンダにおける「敵のイメージ」を創作した主体が「フリンカ・スロバキア人民党」であること、②その「敵のイメージ」の創案にはスロバキアの独立を支援したドイツが影響を与えたこと、③さらには「敵のイメージ」が第二次世界大戦の戦況に応じて変化したことを述べている。(訳者付記)〕

(1) フリンカ・スロバキア人民党

政治的に言えば、チェコスロバキア時代にフリンカ・スロバキア人民党は、ナショナリズム、カトリック、反自由主義、反社会主義、反共産主義を志向したが、国政選挙のときには、反ユダヤ主義的な方向も打ち出した。1936年、フリンカ・スロバキア人民党は「唯一の神、一人の指導者、一つの『党』」というスローガンを立て、それをスロバキア社会で実現しようとした。フリンカ・スロバキア人民党は、民主的な選挙で34%の票しか獲得していないにもかかわらず、全スロバキア人を代表していると主張した。チェコスロバキア民主主義の力によって、フリンカ・スロバキア人民党は独自の政策を実行に移すことができなかったものの、スロバキア共和国が誕生した1939年3月になると、国家政党たるフリンカ・スロバキア人民党の指導者たちは、「ユダヤ人、ユダヤ・ボルシェヴィキ、チェコ人、共産主義者、イギリスとアメリカの^{ブルジョア}金満家など」の幅広く多様な人々を、次第にはっきりと「敵」としてイメージさせるように仕上げていった。スロバキアの政治家たちは、しばしば「お友だち」(ナチス・ドイツ)のプロパガンダに触発されて、ナチスの概念装置を進んで自国に適應させようとした。フリンカ・スロバキア人民党は準軍事組

織であるフリンカ警護団を創設し、スロバキアの内敵と(可能とあれば)外敵をも監視した。

(2) 国が興^{おこ}るときのある方

1939年3月にスロバキア国が誕生したのは、ナチス・ドイツがチェコスロバキアの解体を決定した結果である。スロバキア人は国家を手に入れるために1000年の間努力してきたが、ついに報われた、建国の邪魔をしていた敵(ハンガリー人、チェコ人)がとうとう追い払われた、とプロパガンダは謳歌した。スロバキア国はナチス・ドイツの衛星国となり、ナチスの外交と軍事に従属した。国家の高官たちは、自国の存続を可能にするのはナチス・ドイツの勝利しかないことを悟っていたのである。

(3) 第二次世界大戦の経過

第二次世界大戦(ポーランド侵攻から終戦まで)の戦況は、敵に対するイメージづくりに影響を与えた。ポーランドに侵攻したとき(1939年)の主敵はイギリスであった。1941年になると、敵はイギリスとアメリカになり、1941年6月以降はソ連も敵になった(これは終戦まで続いた)。1943年になると、[在ロンドン]チェコスロバキア亡命政府を敵とするイメージの輪郭が次第にはっきりしてきたが、スロバキア国民蜂起が勃発した1944年8月以降になると、反チェコスロバキア・プロパガンダにおいて敵のイメージは頂点に達した。

5. 味方のイメージ

スロバキアにおける敵のイメージを描き出そうとすれば、まずその対極にある味方のイメージを作り上げなければならない。すでに述べたように、国家勃興のあり方はそのための重要な要素であった。この観点からすれば、国家の揺籃期から1945年の終焉に至るまで

Jewish Relations? In: KUBÁTOVÁ, Hana - LÁNIČEK, Jan (eds.). *Jews and Gentiles in Central and Eastern Central Europe during the Holocaust. History and Memory*. London: Routledge, 2018, pp. 76-9.

の間に展開されたプロパガンダと現実の政治の中に、いつも「我々と我々以外の者」「友人と敵」という二項対立がしっかりと存在していたことは、理の当然であった。「我々」とか「友人」とかのイメージの形成は、アドルフ・ヒトラーとナチス・ドイツが、スロバキア国民の最大の友であり国家の存立を保証する存在であることに基づいていた。

ティソはヒトラーについて次のように言っている。

アドルフ・ヒトラーは我々の真の父であり、……スロバキアの人々は勇敢な子どものように、ヒトラーを慕う。……スロバキアの人々は偉大なる人格者の総統に対して「息子」のように献身的に忠誠を誓いその恩義に報いたいと願っている⁽¹⁷⁾。

「新しいヨーロッパ」を創造しようとするナチスの奮闘は、スロバキアが立てた計画でもあると解釈された。国家社会主義は、スロバキアが「新しいヨーロッパ」の一員となるための方策である、と考えたアレクサンデル・マッハは、次のように述べている。

新しいヨーロッパの勝利は、国家社会主義が勝利したことでもある。勝ちたいと思う者しか、勝つことができない。新しいヨーロッパの勝利と国家社会主義の勝利は、同義である。国家社会主義の秩序の中で生きたいと願い、国家社会主義のやり方で国を建設しようとする者だけが勝利できる。国家社会主義の道半ばにあって、国家社会主義の国になろうと欲



図1 (1941年6月)

している我がスロバキアは、そのような国になるための方法を知っている⁽¹⁸⁾。

このことを視覚化したのが、図1と図2である。図1のタイトルは「友情は切っても切れない！」である。スロバキアの三山と^{ドッベルクロイツ}二重十字架〔総主教十字(架)とも〕をバックにして、ナチスの親衛隊員とスロバキアのフリンカ兵〔フリンカ警護団の隊員〕が一緒に立っている。

図2のタイトルは「新しいヨーロッパの勝利」。絵は上下に分かれ、上部〔新しいヨーロッパが勝利した世界〕は肯定的、下部〔連合国が暗躍する世界〕は否定的である。ヨーロッパの未来(上部)には、ルーズベルト、チャーチル、スターリンがいない。下部には、

(17) FABRICIUS, Miroslav-HRADSKÁ, Katarína (eds.). *Jozef Tiso. Prejavy a články zv. II.* (1938-1944) [ヨゼフ・ティソ — 講演と投稿記事 第2巻 (1938年~1944年) —]. AEP, 2007, S. 349.

(18) *Gardista* [警護団員], 11. 6. 1941, S. 3.



図2 (1941年6月)

中世の邪悪や闇を象徴するコウモリが飛んでいる。[そこからチャーチル（前列左）、スターリン（前列右）、ルーズベルト（後列）が逃げ出そうとしている。]

6. 敵の対外的・政治的イメージ

1942年になると、フリンカ・スロバキア人民党議長兼フリンカ警固団司令官であり、スロバキアの大統領でもあったティソが、「総統（Führer, Vodca [スロバキア語]）」として登場した。それによってスロバキアの国民とスロバキア国の存在を危うくする敵性外国人についての標準的な理解はどのようになったであろうか。これについて述べることにしよう。信仰を重んずるスロバキアでティソの権威を高めたのは、彼がカトリック司祭であったという事実である。以下に掲げる絵

には、ユダヤ・ボルシェヴィズムに対抗する政治レベルの反ユダヤ主義が見られるだけでなく、共産主義や資本主義をも攻撃していることが分かる。スロバキア国の立場に立つティソはヒトラーの権威を後ろ楯にして、ソ連とアングロサクソン系の民主主義（アメリカやイギリス）を攻撃した。1940年9月、ティソは恒例の収穫祭で次のように述べた。

国家社会主義精神から^{ほとぼし} 逆る水は、古くさい国際主義者、ユダヤ・ボルシェヴィキ、マルクス主義者を浄化する。……開戦のときアドルフ・ヒトラー総統は、この戦争が帝国主義戦争ではなく社会戦争であって、金権政治^{ブルジョア}に対する闘いでありマルクス主義に対する闘争でもあると言った。この戦争には大義があり、すべての資本主義とすべてのボルシェヴィズムを丸ごと破滅させる⁽¹⁹⁾。

ヒトラーとのザルツブルグ会談 [1940年7月] が終わった後に演壇に立ったティソは、スロバキアが向かう方向としての国家社会主義（反資本主義、反デモクラシー、反自由主義、反共産主義）を反ユダヤ主義とリンクさせて再統一したが、憎悪に満ちた反ユダヤ主義を堅持してナチス・ドイツと政治面で協力すれば、ナショナリズムによって経済レベルの反ユダヤ主義を正当化できるとも述べた。ティソは、スロバキア人から [財産を] 奪い取ったとされるユダヤ人を犯罪人扱いにしたが、それは古典的なタイプの反ユダヤ主義でもあった。ティソは、ユダヤ人が代々受け継いできた「神殺し」の罪を思い起こさせて、次のように述べている。

(19) FABRICIUS, Miroslav - HRADSKÁ, Katarína (eds.). *Jozef Tiso. Prejavy a články zv. II.* (1938-1944) [ヨゼフ・ティソ — 講演と投稿記事 第2巻 (1938年～1944年) —]. AEP, 2007, S. 267.

ドイツが戦争に負けるなど、あるはずがない。[負けてしまえば] すべてのユダヤ人とその同類分子が舞い戻ってくるはずだ。アドルフ・ヒトラーが言ったように、今日の闘争では、戦争全体が社会戦争であり、金権政治に対する戦争であって、言うならば世界中のユダヤ資本に対する戦争である。このことを理解しなければならない。……ユダヤ人はイエス・キリストの死をピラトに求めたが、そのときの呪いはユダヤ人の上で成就した。ピラトがユダヤ人に、お前たちの王を磔刑に処そうかと問うたとき、ユダヤ人は、我らに王はいない、戴くのはローマ皇帝だけだ、我らと我らの子のためにイエスの血が欲しい、と言ったのである⁽²⁰⁾。

過激なナショナリストの立場に立つティソは、戦争について次のように述べている。

ポーランドとの戦闘と反ボルシェヴィキ運動は、我が国の防衛上最も有効な措置であった。それは国民のためであって、それ以外の何ものでもない⁽²¹⁾。

基本的には、国外に向けられたプロパガンダには、上述の反ボルシェヴィキを含めて次の4つの類型がある。

- 第1類型 反共産主義、反ボルシェヴィズム、反ユダヤ・ボルシェヴィズム^{ブルトクラシー}
- 第2類型 金権政治との戦い(対英、対米)
- 第3類型 反連合(対米、対英、対ソ)
- 第4類型 反チェコスロバキア(反チェコ、反ベネシュ)。

どの型のプロパガンダに該当するかは、それが行われるときの形態とか、時間的経過の順に実施される個々の政策とかによって特定することができる。ただし、上の4類型はあくまで観念的なものであって、理解を深めるための補助にすぎない。ティソの発言を見ても、敵を表現する類型の中の一つだけが語りや視覚化表現を通じて具体的に表出するということはほとんどなく、互いに絡まり合っている。プロパガンダの類型は戦争の経過そのもの[当面の主敵との優劣]に影響されているからである。

対外的な政敵のイメージの土台をなすのは反ユダヤ主義である。これはどの類型のプロパガンダの中にも含まれている。プロパガンダの型を見極めるときのポイントは、ナチス・ドイツと闘っている連合国のどの国にプロパガンダのベクトルが向いているかということである。

以下では、類型別に取り上げることにしよう。

(1) 第1類型

これは反共産主義プロパガンダ(しばしばユダヤ・ボルシェヴィズムと一体化した反ボルシェヴィズム・プロパガンダ)であり、スロバキア軍がドイツ国防軍の同盟軍として東部戦線で敵国と交戦状態にあったという事実とも関連している。モロトフ＝リッベントロップ協定[1939年8月23日締結の独ソ不可侵条約]が締結されて以降、対ソの戦闘態勢は生まれなくなったが、イデオロギーとしてのボルシェヴィズムに対する攻撃は続けられた。1941年6月以降になると[この種のイデオロギー攻撃は]、外敵のイメージを作り上げるときの最重要課題となり、スロバキア国は、プロパガンダの言い方をすれば、予防戦争[敵が有利な戦争を仕掛ける前に、それを予防するために先制攻撃を仕掛ける戦争の謂]に関するナチス・ドイツの見解を寸分

(20) *Slovák* [スロバキアの人々], 1. 10. 1940, S. 1.

(21) FABRICIUS, Miroslav - HRADSKÁ, Katarína (eds.). *Jozef Tiso. Prejavy a články zv. II.* (1938-1944) [ヨゼフ・ティソ — 講演と投稿記事 第2巻 (1938年～1944年) —]. AEP, 2007, S. 522.



図3 (1941年7月)

たが
違わず踏襲した。

首相ヴォイテフ・トゥカの次の演説はその一例である。

ヨーロッパ諸国民の共同体〔枢軸国〕が英雄的に参戦しているから、ボルシェヴィキの血なまぐさい騒乱状態は終焉を迎えるであろう。古くからの^{フルトクラート}金満家の利益を代弁し血塗られた無礼きわまりない、人類の敵と手を組んだヨーロッパ諸国も同じ運命を辿るはずである⁽²²⁾。

ここに、ボルシェヴィズムと^{フルトクラシー}金権政治の両方が一体化しているのを見ることができる。

以下では『国民新聞』に掲載されたカリカチュアを取り上げて、具体的にプロパガンダ



図4

を見ることにしよう。国家社会主義のドイツがソビエト連邦との間で戦端を開いて約1ヶ月が経過した1941年7月27日号の『国民新聞』紙上には、「開幕」と題するカリカチュア(図3)が掲載された⁽²³⁾。これは、スターリン・ボルシェヴィキ独裁体制とユダヤ人との結託(ユダヤ・ボルシェヴィズム)を示そうとした絵である。スターリンの後ろに隠れているのは、「ボルシェヴィズムの殺し屋」を手引きするユダヤ人である。このようにしてユダヤ人には、この世の中にあらゆる災いをもたらす「最悪の存在」というイメージが作られた。これは、「ユダヤ人は神殺しである。」「ユダヤ人はイエスを磔刑にした張本人である。」というような、古典時代や中世から続くステレオタイプの反ユダヤ主義とも結びつくことになった。

政治宣伝局発行のステッカー(図4)でも、ユダヤ・ボルシェヴィズムが描かれている。ユダヤ・ボルシェヴィキのユダヤ人が、^{ハーゲンクロイツ}鉤十字(ドイツ)と^{ドッベルクロイツ}二重十字架(スロバキア)に押し潰されて地面に倒れている。これは、ナチス・ドイツとその同盟国であるスロ

(22) *Slovák*, 14. 9. 1941, S. 1.

(23) *Ludové noviny* [国民新聞], 27. 7. 1941.



図5 (1941年)

バキアが、ユダヤ・ボルシェヴィキのソビエト連邦に勝利するはずだということを象徴的に示している。

図5と図6は、1941年に対ソ戦（バルバロッサ作戦）が始ったときに政治宣伝局が制作したポスターである。図5には、「狂犬病に罹ったユダヤ・ボルシェヴィキに立ち向かう新しいヨーロッパの十字軍騎士」というキャプションが付いている。ポスターの上部には、東部戦線でソ連と戦う国々の騎士や国旗が描かれている。下部には、敗走するボルシェヴィキやソ連を後押しするイギリスとア

メリカも描かれているが、棄てられたり下向きになったりした国旗が描かれている。これは敗北を意味すると考えられる。

図6は兵士の絵で、上部には「社会正義のために資本主義およびユダヤ・ボルシェヴィズムと闘う」というキャプションが書かれている。このポスターの作者は、ヨーゼフ・ゲッベルス（Joseph Goebbels）〔国民啓蒙・宣伝大臣〕の^{たい}プロパガンダ精神を体して、ユダヤ・ボルシェヴィズムのソ連と資本主義

(24)「^{フルトクラシー}金権政治」という言葉は、ナチスのプロパガ



図6 (1941年)

ブルトクラシー⁽²⁴⁾ (金権政治^{ひとから}) の米英を一絡げにして、これら二つの政体をいずれも原理的に否定している。ここで留意すべきは、スロバキア国がその対極に敵方を置いて、友邦のイメージ(スロバキアが永遠に称揚するナチス・ドイツとかアドルフ・ヒトラーのイメージ)を作り上げたということである。

(2) 第2類型

これは「金権政治」の支配への対抗プロパガンダであり、アメリカとイギリスへの宣戦布告のときに利用された。「西側の金満家」のイメージはナチス・ドイツによるプロパガ

ンダがアメリカやイギリスのデモクラシーを表現するときに使用した。この言葉は、ギリシャ語の *plutos* (金持ち) と *kratein* (支配する) の合成語である。したがって、金権政治は富裕層による支配を意味し、ナチスのプロパガンダに言うデモクラシーとは異なる。



図7 (1941年)

ンダを継承している。この種のプロパガンダは、ティソやトゥカの演説の中に見ることができる。内務大臣であったアレクサンデル・マッハはロンドン攻撃(1941年5月)のときに次のように述べた。

奴らはロンドンから策を弄して、労働者人民に対する最大の搾取者である大金持ちのイギリス・ユダヤ人に奉仕しようと、共産主義のスローガンを掲げている⁽²⁵⁾。

この種のプロパガンダを視覚化した例としては、「失敗した手品師」というタイトルの図7のポスター(1941年)を挙げることができる。ルーズベルトがジョン・ブル^[訳注5]

(25) *Gardista*, 3. 5. 1941, S. 3f.

[訳注5] イングランド人のあだ名。肥満体でユニ



図8 (1944年)

(イギリス)に武器供与を約束している。しかし、ナチス・ドイツはこの援助物資を破壊することができる(撃沈した船舶や墜落した航空機)。

「侵略」というタイトルのポスター(1944年)は非常に興味深い(図8)。イギリス兵とアメリカ兵の右手が描かれている(爪ががぎ爪であることから、野獣に擬していることが分かる)。その手にはアメリカ国旗とイギリス国旗が描かれた指輪が嵌められていて、敵前上陸を試みているが、ドイツ兵の短剣が侵略者の手の甲を貫いて侵攻を阻んでいる。

オンジャックのシルクハットに革のブーツ。アメリカ大統領ルーズベルトは「豚(SŮBY)」と書かれた棒でシルクハットから武器を取り出して、イギリス首相チャーチルに供与している。武器は豚の餌か。

(3) 第3類型

これは反ヒトラー連合の否定的なイメージ(敵方のイメージ)を表現している。反ヒトラー連合が形成されるにつれて、プロパガンダ攻撃は「連合国」を構成する三大大国(アメリカ、イギリス、ソ連)に向けられるとともに、ユダヤ・ボルシェヴィズムと西側の^{フルトクラシー}金権政治にも向けられるようになった。

図9(カリカチュア)のモチーフは、世界政治を裏で操るユダヤ人である。世界情勢を支配しているユダヤ人が人形遣^{つかい}になって、スターリン(ソ連)、ルーズベルト(アメリカ大統領)、チャーチル(イギリス首相)を巧みに動かしている。このことが、このカリカチュアからはっきりと分かる⁽²⁶⁾。

図9の上方には見間違えようのない見出し(「主犯はユダヤ人」)が書かれている。これを読み替えて一般化すれば、戦争を始めたユダヤ人が、他の人々を戦争に巻き込んでいるということになるであろう。このカリカチュアは、1939年1月30日の帝国議会におけるヒトラー演説(下の引用文参照)と通底していると言えよう。

……ヨーロッパ内外で国際的金融資本を牛ずるユダヤ人が、国民を再び世界大戦に首尾よく駆り立てることができたとしても、その結果は地球のボルシェヴィキ化でもなければ、ユダヤ人の勝利でもない。あるのは、ヨーロッパ・ユダヤ人の絶滅である。……⁽²⁷⁾

(26) *Ludové noviny*, 24. 8. 1941.

(27) HOFER, W. (ed.), *Der Nationalsozialismus. Dokumente 1933-1945*. Frankfurt am Main: Fischer, 1993, S. 277.



図9 (1941年8月)

図10のカリカチュア「どこまで行くやら」⁽²⁸⁾ (1942年11月29日)では、二頭の牛(スターリンとチャーチル)が引く荷車にアメリカ大統領ルーズベルトがユダヤ人と一緒に乗っている。ルーズベルトには「ユダヤの

星」だけでなく、フリーメイソンの図像^[訳注6]も描かれている。この絵の下には次のように

[訳注6] 図10では鮮明でないが、ルーズベルトが身に付けているバック(?)に描かれた4つのユダヤの星に挟まれた三角形はおそらくアメリカ合衆国の1ドル紙幣に印刷されている上方に目がある三角形の図柄(プロビデンスの目)であろう。図では、プロビデンスの目がフリーメイソンの象徴と見られている。

(28) *Ludové noviny*, 29. 11. 1942.



図 10 (1941 年 11 月)

書かれている。

戦争の生みの親でフリーメイソンの長老であるルーズベルトは、ユダヤ人の大の親友であり、スターリンとチャーチルに荷車を引かせている。スターリンは何とか車を引こうとするが、力果てて地面に倒れこんでいる。チャーチルのほうはと言えば、怠け者で万事休す。二人と一緒にルーズベルトも共倒れだ。

このカリカチュアは、た^{アレゴリー}とえによるプロパガンダである。ナチス・ドイツによる連合国の敗北を予示しているが、現実にはそうはならなかった。1942 年 11 月になると、反ヒトラー連合にとって戦況はさほど悲観するようなものではなくなった。このカリカチュアでは、プロパガンダが批判する「西側の金権政治^{ブルトクラシー}



図 11 (1942 年 12 月)

の国（イギリスとアメリカ）」と「ユダヤ・ボルシェヴィキの国（ソビエト連邦）」とが手を組んでいる。スロバキアの政治家とメディアは、この使い古された国家社会主義の修辞法を採用した。

図 11 のカリカチュア「騎手の冒険」⁽²⁹⁾ もアメリカ、イギリス、ソ連の結託ぶりを描いている。絵の下の方の説明文では、「ボルシェヴィキ — イギリス — アメリカ」の関係が述べられている。この絵では馬の顔がスターリンになっていて、ソ連と赤軍が国家社会主義の国ドイツとの戦いで曳き馬の役割を果たしていることを説明している。東部戦線は、ナチス・ドイツとその同盟国（スロバキアを含む）が共同作戦で臨んだ主戦場であった。図 11 の下方の文章は、「冒険の旅をする

(29) *Ludové noviny*, 13. 12. 1942.

二人の破滅」を予言している。この絵の中にも、政治レベルの反ユダヤ主義を見てとることができる。ルーズベルトの乗馬ズボンには、アメリカ国旗の古典的な五芒星ではなく、ユダヤの六芒星「ダヴィデの星とも」が描かれている。これによって少なくともルーズベルトは、ユダヤ人と手を組んでいることが分かる。当時は金権政治とユダヤ人が繋がっていると見られていたのである。

(4) 第4類型

この型のプロパガンダは、チェコスロバキアやチェコスロバキア亡命政府「ロンドン」とその首班エドゥアルド・ベネシュ（Eduard Beneš）に対する攻撃である。国内ではこの類型のプロパガンダはスロバキア国内のチェコ人コミュニティに対する攻撃という形をとることもあった。スロバキア国民蜂起「1944年8月～10月」のときには、内政と外交が複合した攻撃が見られ、「チェコ・ボルシェヴィズム」という言葉さえも使用されることがあった。

スロバキアの政治家は、チェコスロバキアの解体（1939年3月）に与したことを、純粋に「スロバキア」国民の観点から正当化しようとした。彼らにとっては、チェコスロバキアという国家を維持するよりも、スロバキア人という国民を救済する方が重要であった。そうしなければ、一国の民「国民」としてのスロバキア人は消滅してしまうと考えたからである。戦時中のスロバキア政府首脳が、1943年12月12日にチェコスロバキア亡命政府とソ連との間で締結された条約「ソ連チェコスロバキア友好協力相互援助条約」に反応せざるを得なかったのは当然のことであった。ティソははっきりと次のように述べた。

我々は、チェコスロバキアを再興しようとする国外抵抗勢力とは、これまで関係を持つことはなかった。今後も関係を

持ちたいとは思わない。スロバキアの国と国民については、誰にも口を挟ませることはない。[1938年10月6日に自治政府を樹立したスロバキアがチェコスロバキア共和国から独立した] 1939年3月14日に満を持してスロバキア国民は、国として行動できる主権国家スロバキアの国民に成長したからである。固有の権利を持つスロバキア国民は、一人ひとりに対するこのような大胆不敵で、至って侮辱的な外国からの対抗措置に抗議するものである⁽³⁰⁾。

ティソが何と言おうとも、その演説は口先だけに過ぎなかった。アメリカ、イギリス、ソ連からなる反ヒトラー連合は、チェコスロバキア亡命政府を承認し、チェコスロバキア共和国の再興を大方針としていて、ティソを始めとするスロバキア国の首脳といえども、この現実をなかったことにしたり、変更を加えたりすることはできなかった。

図12のカリカチュアは、ロンドン亡命政府の首班（チェコスロバキア大統領）エドゥアルド・ベネシュに対する攻撃と政治レベルの反ユダヤ主義との結びつきを示している。1942年12月に掲載されていたこのカリカチュアのタイトルは、「ロンドンからの懐かしい歌」⁽³¹⁾である。この絵の中では、みすばらしい身なりのベネシュが赤旗（ボルシェヴィキの旗）を手にユダヤの星が2つ描かれた手回しオルガンを弾いている。絵の中のベネシュは、チェコスロバキア再興を願ういつもの歌を演奏する「ユダヤ・ボルシェヴィキ」である⁽³²⁾。

(30) FABRICIUS, Miroslav - HRADSKÁ, Katarína (eds.). *Jozef Tiso. Prejavy a články zv. II.* (1938-1944) [ヨゼフ・ティソ 一講演と投稿記事 第2巻 (1938年～1944年)]. AEP, 2007, S. 636f.

(31) *Ludové noviny*, 20. 12. 1942.

(32) エドゥアルド・ベネシュが描かれたこの絵は、



図 12 (1942 年 12 月)

以上、5 枚のカリカチュア (図 8～図 12) は、政治レベルの反ユダヤ主義を描いている。しかも、これらすべてのカリカチュアは、ソ連 (スターリン) や西側連合国 (チャーチルとルーズベルト) とユダヤ人を十把一絡げにして、すべてのスロバキア人にとっての不倶戴天の敵としている。ベネシュを戴く亡命政府への批判は、このような考えかたを簡潔に示したものに過ぎない。スロバキア国が、そ

ユダヤの星が描かれた手回しオルガンを演奏するチャーチルの写真に触発されて描かれた。その手回しオルガンの上には、大英帝国の図像である年老いたライオンが座っていて、写真の下には「ゆっくりと演奏して、しっかり歌おう。」と書いてある。その写真は、国家社会主義の新聞『前衛 (Der Stürmer)』から引用されて、1942 年に『猫』誌の壁掛けカレンダーに掲載された。

の政府首脳 (例えばヨゼフ・ティソ) の政治的レトリックだけでなくその施策においても、国家社会主義のドイツ側に立っていることは明白であり、こうしてスロバキア国は「国家社会主義以外のすべての国」(東側の共産主義および西側の議会制民主主義の国々) と敵対するようになったのである。スロバキア国が反ユダヤ政策を自国に移植したのは、国家社会主義国ドイツと同盟していたことの論理的結果である。だが、独自の構想というものがあまりなかったからでもあった。『国民新聞』がカリカチュアを掲載するのは、時代に迎合する言説を下支えするためであり、プロパガンダを通じてスロバキアの人々の中に政治レベルの反ユダヤ主義を拡散させるためでもあった。プロパガンダの中には政治的な意図が投影されていて、スロバキア国と国家社会主義の国ドイツとの関係は、政治的な反ユダヤ主義のレベルでも戦争遂行においても、「痛ましい結末」を迎えるまで終わることがなかった。

ヨゼフ・ティソは 1944 年 12 月に次のように述べた。

……誰もが我々の生存権と独立国スロバキアの権利を否定している。我々のこの闘いを支持しているのはドイツだけである。我々は死に絶えついに消滅すると思われている。そうであればこそ、すべてのスロバキア人は立ち向かわなければならない。さもなければ、我々は国民としての評判を落としてしまうことであろう。そうすると、私はかみ殺すかもしれない者の口の中に飛び込んで行くスロバキアの人々のことを愚か者だと思ってしまふだろう。だが、大ドイツ [ドイツと旧オーストリア (オストマルクとも)] が我々の権利と主張を尊重し支持してくれるならば、我々は彼らと手を組んで勝利するであろう。さもなければ、きっと



図13 (1941年)

名誉の没落を迎えることになるだろう⁽³³⁾。

「ロンドンから進軍ラッパを吹くチャーチル」(図13)というタイトルのポスター(1941年)には、[イギリス軍のヘルメットを肩から提げて]演説するベネシュにささやくチャーチルが描かれている。チャーチルのポケットにはユダヤ人が入っていて、チャーチルとベネシュの足元にはライオンが伏せている(尻尾の先が二股に分かれているライオンはチェコのシンボル)。ベネシュは「市民の皆さん、私は一計を案じています。」と呼びかけているが、スロバキア人(3人)とおばあさんはベネシュを嘲笑してまるで言うことを信じていない^(補注1)。

(33) FABRICIUS, Miroslav - Hradská, Katarína (eds.). Jozef Tiso. Prejavy a články zvl. III. (1944-1947) [ヨゼフ・ティソ — 講演と投稿記事 第3巻 (1944

次頁の図14はスロバキア国民蜂起(1944年8月~10月)のところに描かれ、「ベネシュの願いはこれ」というタイトルであり、廃墟と化したスロバキアとスロバキア人[失意の男性、立ち尽くす母子や嘆く女性など]が描かれている。ベネシュが帰国しチェコスロバキア共和国が再興したときのスロバキアの様子を描いている^(補注2)。

年~1947年) —]. Bratislava, 2007.

(補注1) 図13は、当時ロンドンに亡命していたチェコスロバキア大統領エドゥアルド・ベネシュには自分の意見がなく、ユダヤ人と^{よしみ}誼を通じていたイギリスの首相ウィンストン・チャーチル(Winston Churchill)の意見をオウム返しにしただけと言いたいのであろう。「市民の皆さん、私は一計を案じています。」という文言は、当時ベネシュ大統領が語ったミュンヘン会談(1938年)以前の状況[チェコスロバキアの再興]を改めて思い起こさせるものであった。しかし、西ヨーロッパにあってチェコスロバキアと同盟関係にあったフランスとイギリスは、ナチス・ドイツとファシスト・イタリアがお膳立てしたミュンヘン協定の締結に応じた。このために、チェコスロバキアはドイツと国境を接する地域[ズデーテン地方]を失った。その後、1939年3月にナチス・ドイツはボヘミアとモラヴィアを占領し、そこを保護領とするとともに、ナチス・ドイツの肝いりでスロバキア国が誕生した。ベネシュのチェコスロバキア再興計画は日の目を見なかった。1941年に描かれたこのポスターは、それが実相であることを想起させるものであり、ベネシュには真の計画などなかったと断定している。さらにまた、このポスターは、チェコスロバキアの再興構想を作り上げた人物を特定している。チャーチルである。ドイツの対ソ侵攻(1941年6月のバルバロッサ作戦)が始まるとイギリスの他にソ連もまたチェコスロバキア亡命政府とベネシュを大統領として承認したが、この図13はそのような当時の状況を反映している。ベネシュの計画[チェコスロバキアの再興]が実現したのは、第二次世界大戦で連合国(イギリス、アメリカ、ソ連)が勝利した後のことである。

(補注2) スロバキア語の文章の意味は次のとおり。「独立してから5年をかけてスロバキアの国民と一緒にあってあなたが築きあげたもの、あなたの幸せな未来のための土台が破壊されてしまう。」

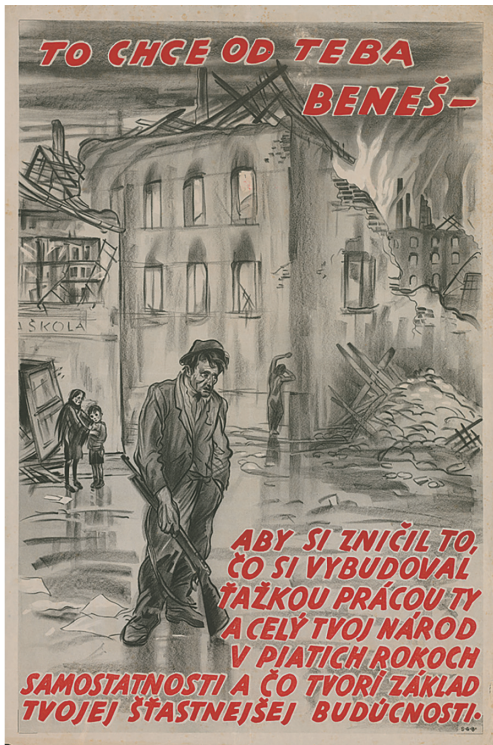


図 14 (1944 年秋)



図 15

7. 国内向け反ユダヤ・プロパガンダ

以下では、ポスター（図 15、図 17、図 18）と『国民新聞』のカリカチュア（図 16）を用いて、政治宣伝局が反ユダヤ主義をどのように演出したかについて、その一端を紹介しよう。

最初のポスター（図 15）には、「ユダヤ人の奴隷になるな。」と書かれていて、スロバキア人たる者はいついかなる状況でも、ユダヤ人を助けてはならないと注意を喚起している。ポスターの中ほどには、「ユダヤ人の仲間になった者は、ユダヤ人とともに死ぬ。」とあり、命令に違反すればどうなるかがはっきりと示されている。それでもユダヤ人を助けようとするスロバキア人は、「白系ユダヤ人」と呼ばれた。

次頁の図 16 は、ユダヤ法（1941 年政令第

198 号）の公布を伝える『国民新聞』（1941 年 9 月 21 日号）の紙面である⁽³⁴⁾。「ユダヤ人、切り捨てらる」というリードは、ユダヤ人を待ち受ける事柄を言い当てている。その下には、「ユダヤ人に最も厳しいスロバキアの人種法」とあり、その右側の挿絵には、「ユダヤ法」の冊子が描かれ、逃げ惑うユダヤ人に条文が雨あられと降りかかっている^[訳注7]。

図 17 には、ユダヤ法によってスロバキア・ユダヤ人に着用が義務づけられたユダヤ人マーク「ダヴィデの星」が描かれている。こ

(34) *Ludové noviny*, 21.9.1941.

[訳注 7] 挿絵の冊子のタイトルは „ŽIDOVSKÝ KODEX (ユダヤ法)“ であり、その下には § 1・270 と書かれている。§ は法律の「条」を示し、ユダヤ法が第 270 条までであることを示している。これはドイツのニュルンベルク法を凌ぐ峻烈な法律であった。



図 17

チュアについても文章と絵には署名がないので、実際の作者は分からない。判明しているのは主筆の名前だけである。

これらのカリカチュアが掲載された 1942 年には、スロバキアでは 5 万 8000 人のユダヤ人（全ユダヤ人の三分の二）が国家社会主義の国ドイツの強制収容所に移送されている[このときの生還者は 300 人を下回るとも言われている]。

強制移送の開始は 1942 年 3 月 25 日であるが、その直後に発行された週刊誌『猫』（4 月 15 日号）は、医師に^{まいない}賂を握らせて買収したユダヤ人が、病気のため強制移送不可という診断書を書かせようとしているカリカチュア（図 19）を掲載した⁽³⁶⁾。

図 20 には、強制移送列車が描かれている。

(36) Kocúr, 1942, Jahrgang 20, 15. 4. 1942.

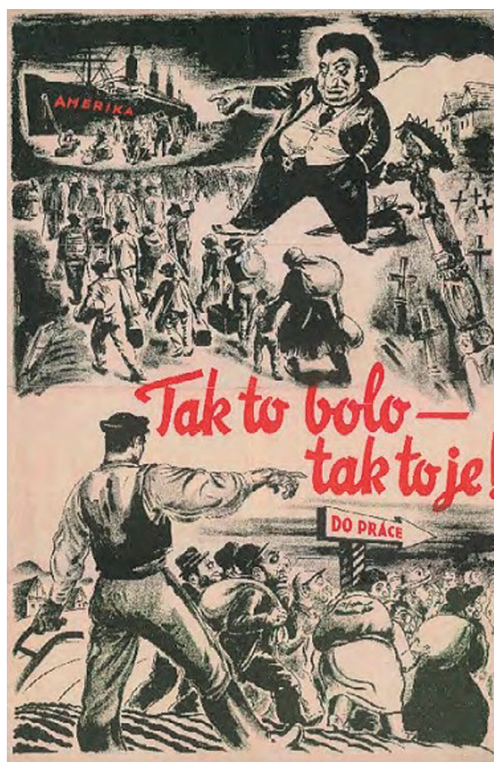


図 18 (1942 年)

これは誤解を招きやすいことを断っておかなければならない。このカリカチュアには普通の客車が描かれているが、ユダヤ人は貨物列車（家畜運搬用貨車）で強制移送されたというのが実相だからである。しかし、これが特に残酷なのは、まだ強制移送されていないユダヤ人たちが手を振って見送っている描写である。これを描いた画家は、当時のプロパガンダを踏襲してユダヤ人の健康状態にも触れており、ユダヤ人の背中には「伝染性咽頭痛」「チフスに注意」などと書かれている⁽³⁷⁾。このような疾病は移送免除の理由になるはずだったが、強制移送の実際の手続きでは無視された。病人、産後間もない女性、精神疾患

(37) バルデヨフ [コシツェの北約 78^{km}] でユダヤ人コミュニティが強制移送を遅らせようとしたときには、このようなやり方をした。



図 19 (1942 年 4 月)

の患者は、健康状態にかかわらず強制移送された（このことを示す証拠がある）。

〔実際には圧倒的大多数が強制移送されたにもかかわらず、〕強制移送の適用除外となったユダヤ人が存在すること（例えば労働許可証が交付された者や1939年3月14日以前に洗礼を受けた者は強制移送されなかったこと）は、今日の専門論文が^{（38）}殊更に論う決まり文句になっているが、図20の下方にはそれと同様趣旨のコメントが書かれている^{（38）}。労働許可証を交付して移送の適用除外となったのは、「社会的有用性や必要性」があると判断されたユダヤ人だけであった。そのような適用除外の対象者として許可されたユダヤ

（38）Kocúr, 1942, Jahrgang 20, 1. 5. 1942. 絵の下には「頼むから、たった一人しかいない牛の乳搾りを連れて行かないでくれ……。」とある。〔必要なユダヤ人は強制移送しない（すべてのユダヤ人が移送されるわけではない）ことを陰伏させている。〕



図 20 (1942 年 5 月)

人は、その職業が社会的に有用な、例えば医師、獣医師、技術者とか、あるいはアーリア化の担い手にその企業の管理能力がないため、〔それを補うべく〕経営に必要とされた者であった。このような「経済上欠くべからざるユダヤ人」がいなければ、アーリア化された企業のほとんどは倒産していたであろう。

図21は、ユダヤ人の人間性を剥奪する当時の流儀を描いている。解剖された動物のようにユダヤ人がスロバキア国立博物館に展示され、後の世代のスロバキア人がユダヤ人の容姿を見学できるようになっている。これは、ユダヤ人が人間ではないことを暗示して、当時の急進的なスロバキア政府が、すべてのユダヤ人をスロバキアから強制移送したいと渴望していたことに照応していると言えよう^{（39）}。

（39）Kocúr, 1942, Jahrgang 20, 15. 6. 1942. 絵の上方の2行には、「スロバキア国立博物館」「民族学部



図 21 (1942 年 6 月)

図 22 は、当時の嫌味なものの見方によるアレゴリーである。この絵では、ユダヤ人が忘れな草の花びらを摘んでいる。ふつうこれは、若い女性がお目当ての青年に愛されているかどうかを戯れに判断するために行われた習慣である。このカリカチュアでは、この行為は転じて、強制移送されるのではないかと思ひ悩むユダヤ人によって行われている。スロバキアのマジョリティはユダヤ人の強制移送を他人事と見ているのである⁽⁴⁰⁾。

一番おしまいのカリカチュア(図 23)は、最後の強制移送(1942 年 10 月 20 日)の前に発表された(1942 年 10 月 15 日)。この絵の運転士は、ユダヤ人の強制移送を所管する

門」と書かれている。右側の保存瓶のラベル(上)には「スロバキア国立博物館展示品」、その下(左側も同じ)には「蜂蜜漬け」とある。[古代エジプトではミイラの防腐剤に蜂蜜を使用したと言われている。]

(40) Kocúr, 1942, Jahrgang 20, 1. 7. 1942. 絵の下には「移送される、されない、される……。」と書かれている。



図 22 (1942 年 7 月)

内務省第 14 局(「ユダヤ人局」)の局長アントン・ヴァシェック⁽⁴¹⁾である。これは、スロバキアからすべてのユダヤ人を「東方へ」「再定住」させるべく奮闘して、移送列車を編成したヴァシェックの姿である⁽⁴²⁾。

数枚を選んでここに掲載したカリカチュア

(41) アントン・ヴァシェック (Anton Vašek) (1905 年～1946 年)。1942 年 4 月 3 日～1944 年 9 月 1 日、内務省第 14 局(「ユダヤ人局」)の局長。第二次世界大戦後、人道に対する罪で死刑宣告。[「ユダヤ人の王」の異名をとるヴァシェックについては以下を参照。Vanda Rajcan, “Anton Vašek, Head of the Interior Ministry’s 14th Department, His Responsibility, and Information about the Deportees,” in: Ján Hlavinka, Hana Kubátová, and Fedor Blaščák (ed.), *Uncovering the Shoah: Resistance of Jews and Efforts to Inform the World on Genocide* (Proceedings from the Conference Žilina, Slovakia, 25–26 August 2015), pp. 124–139. (ヴァンダ・ラジカン「スロバキア内務省第 14 局長アントン・ヴァシェックと強制移送にたいするその責任」(木村和範訳)『経済論集』(北海学園大学)第 71 巻第 1 号, 2023 年 6 月。)]

(42) Kocúr, 1942, Jahrgang 20, 15. 10. 1942.



図23 (1942年10月)

は、『猫』誌がユダヤ人をどのように描いていたかを示している。これらの絵からは、この週刊誌がユダヤ人コミュニティの非人間化と疎外に加担していることが分かる。絵の中のユダヤ人は、人間としての尊厳が奪われた存在として描かれていて、その外見がマジョリティとは異なる「ユダヤ人」は、スロバキア社会の一員ではないという印象を与えている。

ここに選り抜いて掲載したカリカチュアとポスターは、スロバキア国における様々な形態の反ユダヤ・プロパガンダの記録であり、それは逆に庶民の側から見れば、反ユダヤ主義が何たるかを示すものであるとともに、反ユダヤの気持ちを強める役割を果たした。第二次世界大戦時代のスロバキア反ユダヤ主義を可視化するものを選別することは重要である。それによって連合国（アメリカ、イギリス、ソビエト連邦）への攻撃と反ユダヤ主義

との紐帯を、よくよく注意して見ることも大切である。ユダヤ人を敵として描くことは、さらに別のイメージの敵を作り上げることもあった。ドイツ帝国の敵はスロバキアの敵というわけである。

外交面では十分ではなかったが、内政面では反ユダヤ・^{プロパガンダ}は、政治宣伝局のポスターや『猫』誌に掲載されたカリカチュアが示すように、大々的に行われていた。

む す び

戦争が進行するにつれて、ナチス・ドイツの友好国を例外として、基本的には次第にどの国の国民でもスロバキア共和国の首脳を敵視するようになった。このため、スロバキア共和国が上で見たようなプロパガンダに訴えたのは、当然と言えば当然であった。下に述べるようにいくつかの国際政治の曲がり角に來ても、スロバキアの首脳はそれにはまったく反応しなかったが、そのことは興味深くもある。その曲がり角とは、連合国側の会議（カサブランカにおけるルーズベルトとチャーチルの会談（1943年1月14日～23日）、テヘラン〔1943年11月28日～12月1日〕、ヤルタ〔1945年2月4日～2月11日〕）といった出来事、あるいはベニート・ムッソリーニの失脚〔1943年7月25日〕、シチリア〔1943年7月10日〕とイタリア本土への上陸〔1943年9月3日〕などである。これらの大事件に対して個人的には対処する必要がある、と少なくとも大統領ティソや首相トゥカのようなスロバキアの政治家は考えた。しかし、反応したようには思われない。例外はノルマンディー上陸作戦〔1944年6月6日、Dデー〕で、これには首相のトゥカが反応した。このときも、反ヒトラー連合（イギリス、アメリカ、ソ連）に対するプロパガンダは反ユダヤ主義に基づいていた。

文 献

- ACHMANN, Birgit - SALEWSKI, Michael (eds.). *Das Bild des Anderen. Politische Wahrnehmung im 19. und 20. Jahrhundert*. Stuttgart: Franz Steiner Verlag, 2000.
- BENZ, Wolfgang (Hrsg.). *Der Hass gegen die Juden. Dimensionen und Formen des Antisemitismus*. Berlin: Metropol, 2008.
- BUSSEMER, Thymian. *Propaganda: Konzepte und Theorien*. Wiesbaden: VS Verlag für Sozialwissenschaften, 2008.
- CAVALLARO, Dani. *Critical and Cultural Theory*. London: The Athlone Press, 2001.
- ECO, Umberto. *Inventing the Enemy*. Boston-New York: Mariner Books, 2012.
- GARCIA, Anca Andriescu. Inventing the Enemy. When Propaganda Becomes History. In: *Acta Universitatis Sapientiae. Philologica*, Vol. 5, No. 1, 2013, pp. 59–66.
- FABRICIUS, Miroslav - Hradská, Katarína (eds.). *Jozef Tiso. Prejavy a články zv. II. (1938–1944)* [ヨゼフ・ティソ — 講演と投稿記事 第2巻 (1938年～1944年) —]. AEP, 2007.
- FABRICIUS, Miroslav - Hradská, Katarína (eds.). *Jozef Tiso. Prejavy a články zv. III. (1944–1947)* [ヨゼフ・ティソ — 講演と投稿記事 第3巻 (1944年～1947年) —]. Bratislava, 2007.
- HILDEBRAND, Klaus. *Das Dritte Reich*. München: R. Oldenbourg Verlag, 1991.
- HITLER, Adolf. *Mein Kampf*. München, 1936. (『わが闘争』(全二冊)(平野一郎・将積茂訳), 角川文庫, 1973年。)
- HOFER, W. (ed.). *Der Nationalsozialismus. Dokumente 1933–1945*. Frankfurt am Main: Fischer, 1993.
- JOWETT, S. Garth - O'DONELL, Victoria. *Propaganda and Persuasion*. Los Angeles: SAGE Publications, 2012.
- LASSWELL, Harold. Theory of Political Propaganda. In: *American Political Science Review*, Vol. 21, No. 4, 1927, pp. 627–631.
- LÓNČIKOVÁ, Michala. “The Jew Is and Always Will Be Our Greatest Enemy!” Anti-Semitism in Slovak Radio Broadcast from the Reich’s Vienna Radio Station. In: *Forum Historiae*, Vol. 13, No. 1, 2019, pp. 144–159.
- LÓNČIKOVÁ, Michala. Was the Antisemitic Propaganda a Catalyst for tensions in the Slovak-Jewish relations? In: KUBÁTOVÁ, Hana - LÁNIČEK, Jan (eds.). *Jews and Gentiles in Central and Eastern Central Europe during the Holocaust. History and Memory*. London: Routledge 2018, pp. 76–98.
- NÍŽŇANSKÝ, Eduard - KAMENEC, Ivan. *Holokaust na Slovensku 2* [スロバキアのホロコースト 第2巻]. Bratislava, 2003.
- NÍŽŇANSKÝ, Eduard (ed.). *Holokaust na Slovensku 6. Deportácie v roku 1942. Dokumenty*. [スロバキアのホロコースト 第6巻 1942年の強制移送と関連資料] Bratislava: DSH, 2005.
- NÍŽŇANSKÝ, Eduard. *Obraz nepriateľa v propagande počas II. svetovej vojny na Slovensku* [第二次世界大戦中のスロバキアにおけるプロパガンダに見る敵のイメージ]. Banská Bystrica: Múzeum SNP, 2016.
- SCHMITT, Carl. *Der Begriff der Politischen*. Berlin: Duncker & Humblot, 1932.
- WARD, James Mace. *Priest, Politician, Collaborator: Jozef Tiso and the Making of Fascist Slovakia*. Ithaca and London: Cornell University Press, 2013.